

〔曲名〕 Il Cornevale di Venezia

ヴェニスの大肉祭

〔曲種〕

〔作曲者〕 C.Graziani-Walter

カルロ グラツィアーニ・ワルテル

〔編曲〕

作者に就いては第五号解説を参照されたい。

ス楽の出版社で最も古いものにフィレンエのVenturiniがある。

イタリアス楽草創時代の作品を数多く出版したが創業が1875年で1905年にはミラノのカリッシに譲渡された。

之も既に今は無い。

本曲はそのVenturini出版で作品108番、

元来グラツィアーニワルテルは色々な編成の合奏曲を主体としているが本曲は数少ないマンドリン独奏曲の一つ。

「ベニスの大肉祭」は1816年パガニーニがヴェニスで聴いたその頃のポピュラーな歌で彼の魔弓によって一躍世界的著名になったもので、

マンドリンでもムニエル、ベルレンギが変奏曲を書いている。

グラツィアーニワルテルはそのマンドリン教則本の中で自作のマンドリンコンチェルトも巻末に加え奏者としての力量も披露しているが、

技術的に見れば中庸程度の独奏曲でさして新味はないが当時としてみれば異色の力作であったに違いない。

コーダが二様に書かれており撰択は自由であるが、

コードに現今マンドリンでは不可能な所があるのはミラノ風マンドリンに書かれたものであろう。

作者の友のアントニオーベルナルディーニに贈られている。

1970年6月10日発行

イタリアマンドリン百曲選第6集より